

# 日本と世界のビール業界の動向



## その2 「日本マーケット」編

- 2.1 ビール出荷統計:ピーク時の80%以下
- 2.2 ビール産業の140年の歴史:時代は繰り返す
- 2.3 大手各社の動向:「脱ビール」+「脱日本」
- 2.4 「0.00%」マーケットの分析

全18ページ      資料作成:2012年7月 (ed.2.2)

### Introduction & Acknowledgement

ビール産業に関しては、国内外のM&A、国内市場の動向、大手4社の経営戦略、新製品の発売等々、日々多くの新聞報道や業界情報がありますが、個別に見ていても全体像が分かりずらく、情報を整理したい、業界の実情や歴史、世界情勢などについてまとめておきたい、とって本資料を作成したものです。

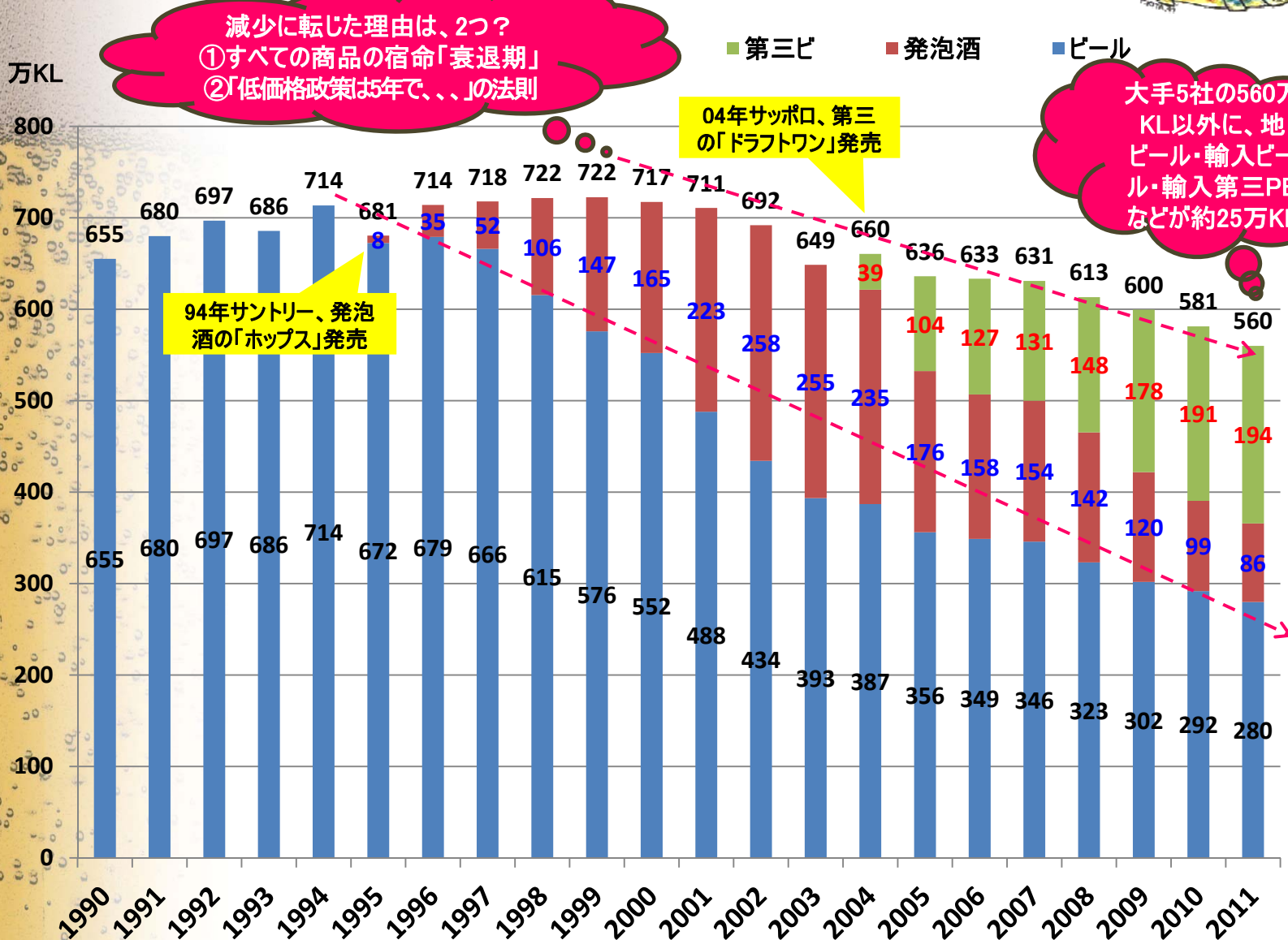
当社は日本の大手ビール各社、多くの地ビール醸造所の皆様とお取引引きいただいています。この資料を作成したのは、皆様にお取引引きいただいているが故で、改めてビールのお取引各社に感謝の意を表します。

公開された情報を基本に作成していますが、誤謬もあるかもしれません。ご指摘いただければ幸いです。  
(2012年4月20日JBA総会での発表をベースに作成したもの      text: 喜多常夫)

# ビール類の出荷量：約20年の推移 (ビール酒造組合の大手5社のみ)



出所：ビール酒造組合＋発泡酒税制を考える会



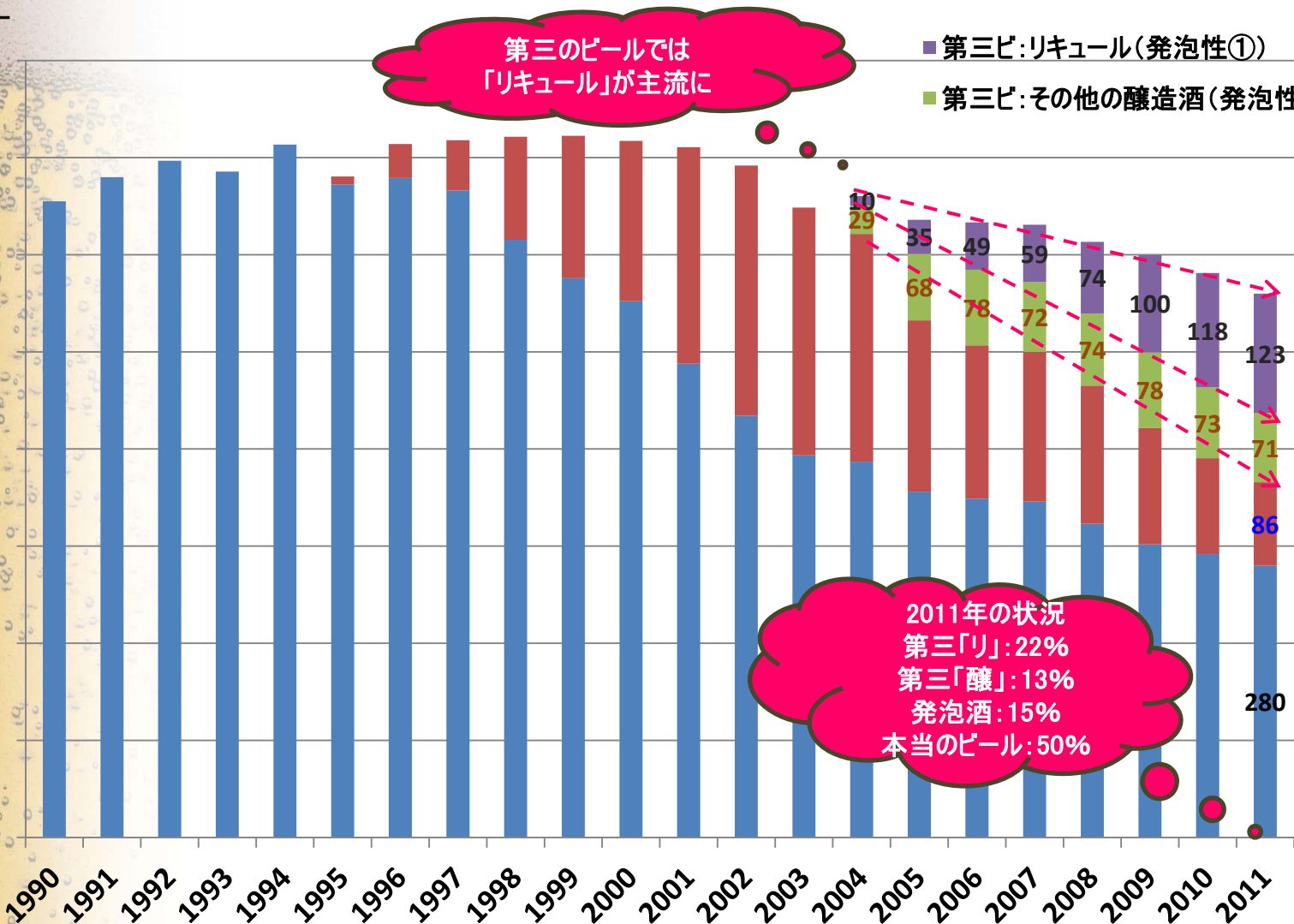
# ビール類の出荷量：約20年の推移 (ビール酒造組合の大手5社のみ)



出所：発泡酒税制を考える会＋当社推定

万KL

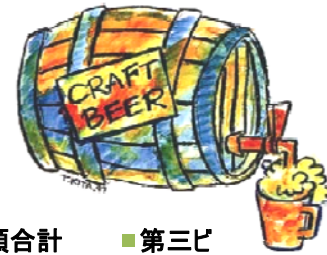
800  
700  
600  
500  
400  
300  
200  
100  
0



第三のビールでは「リキュール」が主流に

2011年の状況  
 第三「リ」: 22%  
 第三「醸」: 13%  
 発泡酒: 15%  
 本当のビール: 50%

# ビール類の出荷量：約140年の推移 (ビール産業黎明期から)



「ビール醸造設備発展の系統的調査」 藤沢英夫(元、麒麟ビール)  
 国立科学博物館 技術の系等化調査報告 第14集 2009年5月29日発行  
<http://sts.kahaku.go.jp/diversity/document/system/pdf/058.pdf>

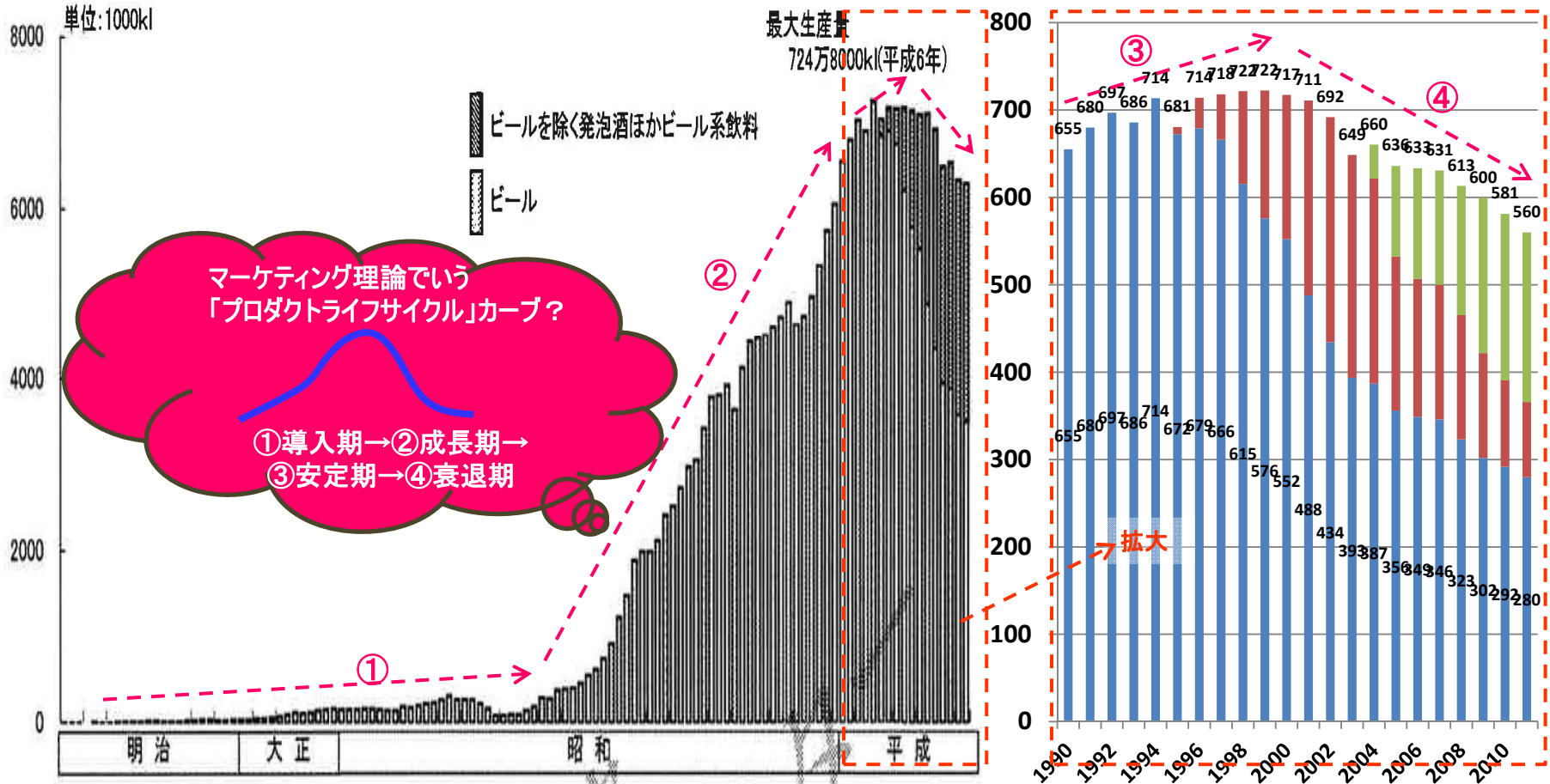


図 2.13 明治勃興期から今日までのビール類の生産量推移





# 明治のビール産業:「多くの醸造所があった時代」

ビール銘柄一覧表

麒麟麦酒株式会社五十年史(1957)より(一部加筆修正)

銘柄	経営者	所在地	銘柄	経営者	所在地
1 天沼ビール(通称)	コブランド、ウィーランド	横浜	62 アツマビール	東 商会	東京四谷
2 ミツ麒麟ビール	野口正章	甲府	63 日本麦酒	石川醸造所	西多摩郡奥多摩市
3 〃	野口忠蔵	〃	64 マレコビール	マルコ商会	武蔵
4 渋谷ビール	渋谷庄三郎	大阪	65 東陽ビール	東陽麦酒醸造所	東京日暮
4 札幌ビール	開拓史	札幌	66 孔雀ビール	天酒醸造	大阪
6 桜田ビール	宮沢三右衛門等	東京	67 大阪ビール	橋本醸造	大阪
6 手形ビール	富内福三	東京	68 ライオンビール	Lion Beer Brewery	大阪
7 浪華ビール	荒木 某	大阪	69 山名ビール	G.ヤマナ	大阪
8 麒麟ペールエール	橋本清三郎	大阪	70 孔雀ビール	大橋	大阪
9 エビスビール	栗谷善三郎、大村助次郎	大阪	71 ナミハナビール	不明	大阪安土町
10 朝日ビール	小西儀助	大阪	72 コックビール	不明	大阪
11 ミツ星ビール	盛田久左衛門	愛知	73 菊ビール	不明	大阪川口
12 半田ビール	竹本久三郎	愛知(半田)	74 千歳ビール	S.横山	大阪
13 鷲ビール	不明	愛知(豊塚)	75 葵ビール	折田商店	大阪
14 浅田ビール	浅田甚右衛門	東京	76 明治ビール	不明	大阪天満
15 キリンビール	ジャンブルワリー	横浜	77 東陽ビール	エスエナ商会	大阪
16 大倉ビール	大倉蔵太郎	東京	78 富士ビール	矢島	大阪
17 札幌ビール	大倉 裕	札幌	79 菊水ビール	南 商店	河内
18 エビスビール	日本麦酒醸造会社	東京	80 九重ビール	イソハタブルワリー	京都
19 アサヒビール	大阪麦酒株式会社	大阪	81 ラガービール	不明	京都
20 丸三ビール	盛田善平	愛知	82 九重ビール	太田弦造	京都
21 札幌ビール	札幌麦酒株式会社	札幌	83 井筒ビール	S.井口	京都不慮町
22 大黒ビール	大黒倉(安藤外)	東京	84 日の丸ビール	日笠社	京都
23 帝國ビール(カイゼルビール)	帝國麦酒株式会社	大阪	85 キマールビール	キマール会社	摂津灘
24 東京ビール	東京麦酒株式会社	神奈川	86 布引ビール	布引社	摂津灘
25 カブビール	丸三麦酒株式会社	愛知	87 キンゾビール	大海堂目下郎兵衛	摂津兵庫
26 サクラビール	帝國麦酒株式会社	門司	88 四ツ目ビール	四方常吉	神戸
27 カスケードビール	日英醸造株式会社	鶴見	89 軍艦ビール	池田伊三郎	和歌山県
28 フジビール	東洋醸造株式会社	仙台	90 ポックビール	函館麦酒醸造所	函館
29 高砂ビール	高砂麦酒株式会社	愛知	91 函館ビール	渡辺龍四郎	函館
30 ユニオンビール	日本麦酒株式会社	愛知	92 競ビール	不明	愛知県
31 新カスケードビール	株式会社青森麦酒部	鶴見	93 台山ビール	マキノ	金沢
32 オラガビール	大日本麦酒株式会社	東京	94 富士ビール	北陸麦酒醸造所	新潟
33 アサヒビール	麒麟麦酒株式会社	横浜	95 キラクビール	信濃麦酒株式会社	長野
34 ニッポンビール	日本麦酒株式会社	東京	96 信濃麦酒	山岸朝次郎	長野
35 アサヒビール	朝日麦酒株式会社	東京	97 大和麦酒	折井栄太郎	長野
36 保潔ビール(通称)	保潔 某	横浜	98 桜麦酒	中村寛平	長野
37 横浜ビール	渋谷留吉	横浜本牧	99 上菱ビール	関口八兵衛	茨城嶋崎
38 大黒ビール	渋谷留吉	横浜新田橋通り	100 野田ビール	マルマル & Co.	千葉
39 光輝ビール	不明	横浜	101 チカリビール	芳賀雄助	山形
40 中谷ビール	不明	横浜本牧	102 鶴岡麦酒	佐藤七郎	山形
41 テーブルビール	磯貝善兵衛	東京湯島	103 大和ビール	宇野	滋賀豊田村
42 富貴ビール	富貴麦酒株式会社	東京品川	104 神都ビール	西田	伊勢山田
43 日進ビール	畑 吉五郎	東京淀橋	105 チキリビール	伴島	岐阜
44 アラガネマビール	不明	東京新橋	106 竜ビール	久野	長門
45 小石川ビール	不明	東京小石川	107 テングビール	不明	広島
46 蛇の目ビール	不明	東京橋本八音町	108 日本ビール	不明	広島
47 カービール	加東組	東京	109 イロホビール	料森保兵衛	福山市
48 ダルマビール	達磨麦酒醸造	東京	110 姫松ビール	姫松商会	愛媛
49 三菱ビール	三菱醸造所	東京	111 四ツ星ビール	宮内 四ツ星館	宇和島
50 日の丸ビール	不明	東京	112 フクビール	福久組醸造	徳島
51 ミヤコビール	発売元 不破商店	東京	113 本田ビール	本田	長崎
52 ミシキビール	錦織	東京	114 LAGER-BEER	ナカミ醸造	不明
53 旭ビール	大倉商店	東京	115 亀ビール	島原	不明
54 荒馬ビール	平野商店	東京日本橋	116 輸出ビール	南海堂	不明
55 布袋ビール	東京醸造所	東京	117 山口商会	山口商会	不明
56 金鷲ビール	日比野発売	東京	118 野田商会	野田商会	不明
57 紅葉ビール	葡萄酒会社	東京	119 東海ビール	東海麦酒醸造所	不明
58 盛ビール	鮫島盛吉醸造所	東京	120 金水ビール	金水社	不明
59 蜻蛉ビール	蜻蛉麦酒醸造所	東京白暮里	121 加藤ビール	加藤組	不明
60 桜麦酒	近藤醸造所	東京	122 ボタンビール	中富	不明
61 利根川ビール	流芳社	東京本郷根津	123 タマビール	宝島	不明
			124 不明	京都倉密局醸造所	京都

寿屋(現、サントリー)が、かつて造っていたビール

## 明治初年の京都のビール

明治初年、文明開化の風潮に乗じて全国各地に小さなビール会社が数多く設立された。著者は、東京運部後の京都で産業振興のために設立された京都倉密局麦酒醸造所、そして扇麦酒、井筒麦酒、九重麦酒、兜麦酒などの知られざる興亡の経緯を、京都府庁文書、地元新聞記事を発掘調査して興味深く紹介された。

吉田 元

### はじめに

観光客でにぎわう京都平安神宮の大鳥居の近くに、胸像をはめ込んだ「ワグネル博士顕彰碑」がひっそりと建っている(写真1)。東京運部後、裏退けはなはだしかった京都の産業振興策として、府が設立したのが工業試験所ともいうべき役所、倉密局(せいみきょく)であるが、ここでのビール醸造はドイツ人、ワグネルの指導によるものといわれている。

京都におけるビール醸造は、明治10年(1877)倉密局によってはじめられたが、わずか4年足らずで挫折した。その後いくつもの小メーカーがビール醸造を試みたが、明治20年代に入るとほとんどが東京や大阪の大メーカーの製品に押されて淘汰されてしまった。本稿では京都府庁行政文書と地元新聞の記事をもとに、その短い歩みをたどってみることにしたい。

### 1. 倉密局の設立と諸事業

東京運部後まもない明治3年(1870)3月、京都府は洋学者山本覚馬(1828～1892)を雇用することになった。

京都府が山本を採用した意図は、「京都は積年の陋習と地勢のため、人民の開化、文明開化も進みかね、自ら職業興隆、物産殖産の道も開きたく、はなはだ苦心をしていたが、海外事情にくわしい人材もなかったため、今回山本覚馬を登用し、諸人に教授させた」ということであった。倉密局の設立は、諸人にも学んでおり、その後京都府顧問として知事横村正直を助けて倉密局の開設、国内勧業博覧会の開催などに尽力した。また妹八重は同志社の創設者新島義の夫人である。

京都府はさらに、同年11月にプロシア人教師(名前は不詳)を招聘して語学、数学を教授させるとともに、水理、地理物産、器械などを伝習させることとした。これが京都府による外国人雇用のはじまりである。明治3年12月、京都府は勧業場の中に倉密製造所(せいみ)を設置した。「倉密(せいみ)」とはオランダ語 chemie の音をあてたもので、「化学」という語がまだ普及する以前の用語である。

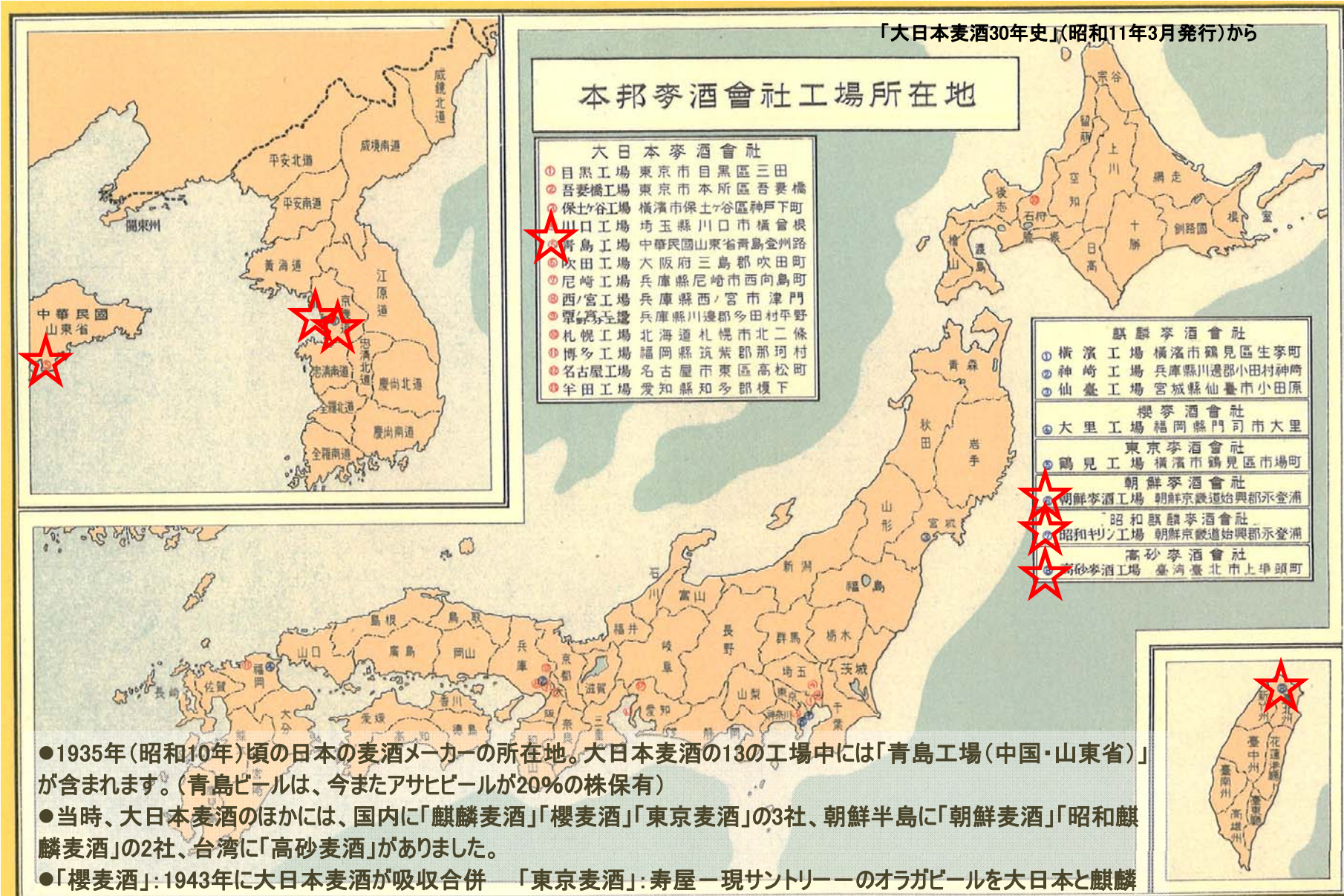
明治5年1月には倉密局分局が鴨川西岸二条に建設され、まず石炭と氷糖を製造した。現在銅陀美術工芸高校の建っている場所である。府権大属の明石博高(1839～1910)は、京都の薬種商に生れ、京都より先に創設された大阪倉密局においてオランダ人、ハラタ



写真1 ワグネル顕彰碑(京都市岡崎公園)

History of Beer Production in Kyoto  
Hajime YOSHIDA (Shuichin University, Kyoto)

# 1935年ごろ(戦前)のビール産業:「集約と海外展開の時代」



- 1935年(昭和10年)頃の日本の麦酒メーカーの所在地。大日本麦酒の13の工場中には「青島工場(中国・山東省)」が含まれます。(青島ビールは、今またアサヒビールが20%の株保有)
- 当時、大日本麦酒のほかには、国内に「麒麟麦酒」「櫻麦酒」「東京麦酒」の3社、朝鮮半島に「朝鮮麦酒」「昭和麒麟麦酒」の2社、台湾に「高砂麦酒」がありました。
- 「櫻麦酒」: 1943年に大日本麦酒が吸収合併—「東京麦酒」: 寿屋—現サントリー—のオラガビールを大日本と麒麟の共販会社を買収して設立したが1948年解散 「朝鮮麦酒」: 戦後、Crownを経て現在Hite-Jinro 「昭和麒麟麦酒」: 戦後、OBビールとなって現在に至る 「高砂麦酒」: 戦後、台湾公売局を経て現在TTL台北啤酒(ビール)工場



# 2011-12年の日本の大手ビール4社：脱ビール、脱日本

## 時代は繰り返す：再び「集約と海外展開の時代」

- **国内：ビール以外を含めた総合酒類化**（キリン→メルシャンの完全子会社化、アサヒ→甲乙混和焼酎、サッポロ→バカルディの販売、サントリー→ソウルマッコリ、など）
  - **国内：総合飲料化、M&A、ブランド買収**（サッポロ→ポッカ、アサヒ→六甲のおいしい水（ハウス）、サントリー→アセロラ（ニチレイ）、アサヒ→カゴメの麦茶、など。2012年4月にはアサヒがカルピス買収の報道）
  - **国内：酒類以外への多角化**（キリン→協和発酵キリン、アサヒ→ベビーフードの和光堂、など）
  - **海外：ビール事業（と酒類事業）の国際化** 日本勢は、1980～1990年代から世界最大の市場になると見込まれた中国市場↑を一番の狙い目として活動していた。（中国への進出年：サントリー1984年、アサヒ1994年、キリン1996年など）しかし、2005年ころ以降は欧米勢（AB InBev、SAB Millerなど）や中国資本（華潤雪花、青島、燕京など）に押されて苦戦。日本勢は中国（＝最大の成長マーケット）を重視しながらも、主戦場を、韓国↑\*（キリン、アサヒ、サッポロ、サントリー）、ベトナム↑（サッポロ）、北米→（サッポロ、サントリー）、ブラジル↑（キリン）、オーストラリア→（キリン）、ヨーロッパ→（アサヒ、キリン）、ロシア↑（アサヒ、キリン）などに分散しつつある。「成長重視」から「ニッチ&プレミアム」の戦略へ修正を余儀なくされている？（↑→はビール市場の成長動向。\*韓国の↑は輸入ビールのみ↑）
  - **海外：飲料事業の国際化** 日本勢は、ビール集中路線ではなく、清涼飲料やビール以外の酒類でM&Aを行い、活路を見出そうとしている。
- ✓ 4社ともホールディングカンパニー化（2011年のアサヒグループHが最後）
  - ✓ 規模の拡大：キリン・サントリーの統合はご破算に。。
  - ✓ 「1社がやると残り3社も必ずやる」（いつも熾烈な競争になる→強さの源泉でもある？）

# 2011-12年の日本の大手ビール4社：脱ビール、脱日本

	主な工場進出・企業買収・出資	分野	重点エリア
キリン	<ul style="list-style-type: none"> <li>●オーストラリア：ライオン、ナショナルワーズ</li> <li>●中国：(96年から中国へ)麒麟啤酒(珠海)、杭州千島湖啤酒、華潤と飲料合併(注：華潤のビールはSAB MillerのJV)</li> <li>●フィリピン：サンミゲル(48%)</li> <li>●ベトナム：インターフード</li> <li>●シンガポール：Fraser&amp;Neave(15%)</li> <li>●ブラジル：スキンカリオール(ビールのほか飲料でもブラジル3位)、東山農産加工(清酒)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ビール</li> <li>●酒類</li> <li>●清酒</li> <li>●飲料</li> <li>●乳製品</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●アジア</li> <li>●パシフィック</li> <li>●ブラジル</li> </ul>
アサヒ	<ul style="list-style-type: none"> <li>●オーストラリア：シュウェップス・オーストラリア、P&amp;N(現在アサヒ・ピバレッジス)</li> <li>●ニュージーランド：インディペンデントリカー(酒類会社、ビールも生産)</li> <li>●中国：(94年から中国へ)北京啤酒朝日ほか(青島ビールの株の約20%保有。一方、2011年、杭州と浙江のビール工場の出資持ち分を華潤雪花に売却などして再編中)</li> <li>●マレーシア：ペルマニス(飲料)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ビール</li> <li>●酒類</li> <li>●飲料</li> <li>●ミネラルウォーター</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中国</li> <li>●アジア</li> <li>●パシフィック</li> </ul>
サッポロ	<ul style="list-style-type: none"> <li>●カナダ：スリーマン</li> <li>●ベトナム：自社ビール工場</li> <li>●シンガポール：2011年に買収したポツカの飲料工場</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ビール</li> <li>●飲料</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●北米</li> <li>●アジア</li> </ul>
サントリー	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中国：(84年から中国へ)三得利酒(上海)など</li> <li>●ニュージーランド：フルコア(飲料)</li> <li>●フランス：オランジーナ・シュウェップス、ルイロワイエ(コニャック)、Ch.ラグランジュ(ワイン)など</li> <li>●ドイツ：ロバートヴァイル(ワイン)</li> <li>●メキシコ：自社工場(Midori)</li> <li>●英国：ポウモア(ウイスキー)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ビール</li> <li>●飲料</li> <li>●ワイン</li> <li>●ウイスキー</li> <li>●スピリッツ</li> <li>●キュール</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中国</li> <li>●パシフィック</li> <li>●ヨーロッパ</li> <li>●北米</li> </ul>

Asia & Oceania

Brazil

新酒類飲料  
インターフード  
サンミゲルビール  
麒麟ホールディングス・シンガポール  
プレイザー・アンド・ニュー  
ライオン  
スキンカリオール

ロッチアサヒ酒類(ソコム)  
三島酒類(自他)  
アムロフトブリュー(自他)  
パンコク製糖(自他)  
シュウェップス・オーストラリア(メルボルン)  
アサヒピバレッジ・オーストラリア(シドニー)  
インディペンデント・リカー(リトルトン)

● 買収拠点  
● 生産拠点(ビール)  
● 生産拠点(飲料)  
● 生産拠点(乳業・農産)  
● その他

カナダ・スリーマン

ベトナム 自社工場

サントリー上海ビール工場

Ch. ラグランジュ(フランス)

# 日本のビール産業：自社ブランドを海外に

2009～2010年ごろから自社「プレミアム」ブランドの海外販売に4社こぞって注力：2012年7月時点のチャンネルのまとめ（記述は推測を含む）

	海外で売れ込む 主要な「プレミアム」ブランド	①日本製の輸出地域の事例 (中国製など日本製以外の記述含む)	②プレミアムブランドを生 産する海外の自社工場、 または合併工場	③海外のビール企業への委託生産先	2011年 推定実績
キリン	キリン ICHIBAN (一番)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●韓国：日本製を輸出のほか、一部中国製も(韓国1位のHite-Jinroと販売提携)</li> <li>●シンガポール：日本製を輸出(ハイネケン系列のAPBに販売委託)</li> <li>●台湾：日本製のほか、中国製(一番でないブランド)も</li> <li>●香港：日本製のほか、中国製も(2012年7月からサンミゲル香港に販売委託)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中国：麒麟啤酒(珠海)有限公司(「一番」のほか、中・低価格ブランドも生産)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ドイツ・ミュンヘン・ヴァイヘンシュテファン(2010年から。2009年に麦芽100%にリニューアルしたので「ビール純粋法」のドイツで委託生産が可能)</li> <li>●ロシア・カリーニングラード・イワンタラノフ(ハイネケン系列)</li> <li>●英国・ベドフォード・ウェルズ&amp;ヤング</li> <li>●アメリカ・ABのLA工場(2012年6月から東海岸のABのバージニア工場でも委託生産開始)</li> </ul>	約 xxxKL
アサヒ	スーパー ドライ	<ul style="list-style-type: none"> <li>●韓国：日本製を輸出(ロッテと販売提携—ロッテ・アサヒ酒類。2011年、スーパードライがハイネケンを抜いて韓国輸入ビールトップシェアに)</li> <li>●台湾：日本製のほか、中国製(スーパードライではないブランド)も輸出</li> <li>●香港、マレーシア：日本製を輸出(カールスバーグに販売委託)</li> <li>●オーストラリア：インディペンデントリカーに販売委託</li> <li>●中国：青島ビールの全国販売網に乗せる交渉中</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中国：北京啤酒朝日有限公司(「スーパードライ」のほか、中・低価格ブランドも生産)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●チェコ・スタロップラーメンStaropramen(2000年から。最初の海外委託)</li> <li>●英国・シェパードニーム(2005年から)</li> <li>●ロシア・モスクワ・バルチカ</li> <li>●タイ・ブンロート(タイ大手、2011年から)</li> <li>●マレーシア・カールスバーグ・マレーシア(2011年から)</li> <li>●カナダ・モルソン・カナダ社</li> </ul>	約 xxxKL
サッポロ	サッポロ ・プレミアム	<ul style="list-style-type: none"> <li>●韓国：日本製を輸出のほか、一部カナダ製も(提携先のメイル乳業のビール販売子会社に出資)</li> <li>●中国・台湾：日本製を輸出</li> <li>●ヨーロッパ：主に日本から輸出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●北南米：スリーマン(完全子会社)で生産→北・南米市場などに</li> <li>●ベトナム：ホーチミン近郊の自社工場で2011年生産開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●アイルランド・ギネス</li> <li>●オーストラリア・アデレード・クーパーズ・プリューイング(2011年から)</li> </ul>	約 xxxKL
サントリー	プレミアム モルツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(上海工場進出は早い)がプレミアムビールの海外展開は後発。2010年からシンガポール、タイ、マレーシア、アメリカ西海岸、ハワイ、ロシアなどに輸出開始。</li> <li>●韓国：特に注力(韓国2位のOBビールと販売提携)</li> <li>●(欧州の本格進出はまだ)</li> </ul>	(中国：上海工場などでは中・低価格ブランドを50万KL内外生産。台湾向けPBブランドなども生産するが、プレミアムモルツは生産していない。)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(現時点で、海外の委託製造はない)</li> </ul>	約 xxxKL
2011年推定実績		約3万KL	約6万KL	約5万KL	約14万KL

# 海外における委託生産の実態



made in 



韓国・ソウルにて、2011年9月：

- サッポロ・プレミアムの壺はカナダ・スリーマン社製
- キリンICHIBANの「壺」は中国製 (Kirin Brewery ZHUHAI 麒麟啤酒(珠海))
- なお、サッポロ・プレミアム、キリンICHIBANの「缶」は日本製
- アサヒ・スーパードライ、サントリー・プレミアムモルツも日本製



made in 



ブラジル・サンパウロにて、2011年12月：

- サッポロ・プレミアムはカナダのスリーマン製
- キリンICHIBANはアメリカLAのアンホイザーブッシュに製造委託した製品




made in 



made in 



made in 



アメリカ・NYにて、2011年12月：

- キリンICHIBAN 100%MALT はアンホイザーブッシュに製造委託

# 海外における委託生産の実態



made in



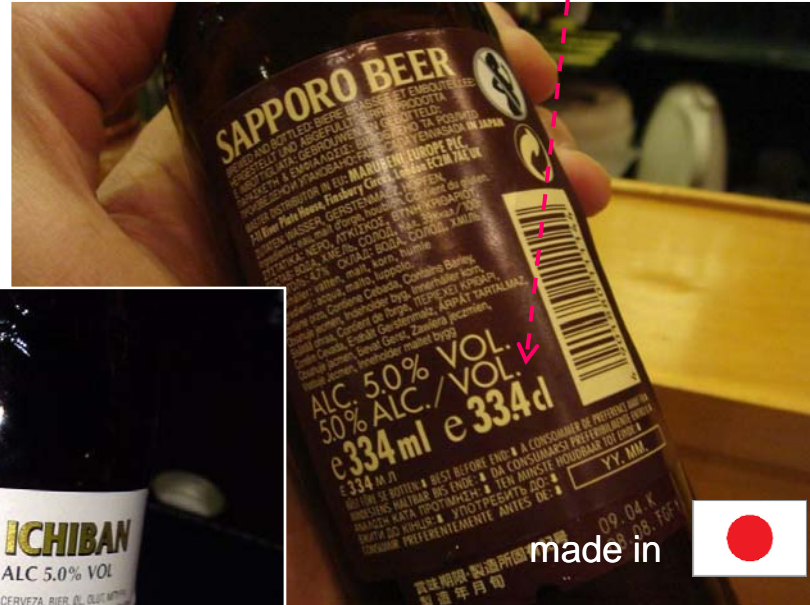
イタリア・トリノにて、  
2011年5月：

- アサヒ・スーパードライはチェコ製
- キリンICHIBANはドイツのヴァイヘンシュテファン製



ドイツ・フランクフルトにて  
2008年12月：

- サッポロ・プレミアムは日本製(委託ではない)



made in



made in



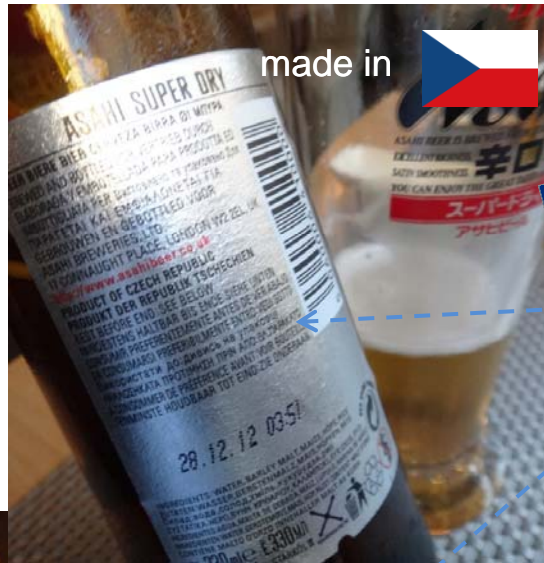
made in



フランス・サンマロにて、  
2009年12月：

- キリンICHIBANはロシアのカーリーニングラードで委託生産

# 海外における委託生産の実態



made in



フランス・ニースにて、2012年6月:

- アサヒ・スーパードライはチェコ製
- サッポロ・エビスは日本製の334ml(委託ではない)



台湾・台北

にて、2012年6月:

- アサヒ・乾杯は中国製(深圳青島啤酒朝日有限公司)
- アサヒ・スパードライは日本製



made in



&



made in



made in



&



made in



&



台湾・台北のセブンイレブンにて、2012年6月:

- アサヒ・乾杯は中国製(深圳青島啤酒朝日有限公司)
- 麒麟ICHIBANは日本製
- 麒麟BarBeerは中国製(麒麟啤酒(珠海))
- サントリー・7セレクトは中国製(三德利啤酒(昆山))



# 日本のビール産業：自社ブランドを海外に

## 日本製ビールの輸出実績(2011年の量の順)

財務省貿易統計から作成

	2011年(KL)	2010年(KL)	量の伸び率	2011年350ml缶 換算の輸出価格
103 大韓民国	13,128	8,348	57%	¥40
106 台湾	5,618	3,371	67%	¥35
304 アメリカ合衆国	2,793	2,390	17%	¥52
224 ロシア	2,214	2,181	2%	¥44
112 シンガポール	2,200	1,764	25%	¥54
108 香港	1,955	2,048	-5%	¥43
601 オーストラリア	1,606	1,696	-5%	¥45
606 ニュージーランド	414	351	18%	¥60
302 カナダ	384	344	12%	¥42
620 グアム(米)	175	297	-41%	¥39
110 ベトナム	132	32	309%	¥46
205 英国	74	122	-39%	¥75
220 イタリア	73	138	-47%	¥89
105 中国	61	192	-68%	¥90
628 パラオ	47	124	-62%	¥38
627 北マリアナ諸島(米)	39	98	-60%	¥40
210 フランス	39	193	-80%	¥79
その他	127	289	-56%	¥68
合計	31,078	23,978	30%	¥43

40円前後！  
直接輸出は  
採算が極めて  
厳しい！  
海外では委  
託醸造が必要  
なわけだ。

2011年の直接輸出の4割  
以上は韓国向け、大手4社  
とも韓国が一番のターゲット



picture: t.kita

韓国・ソウルの流通現場にて 2011年9月：ソウル市内の居酒屋、料飲店、ワインバーなどに酒類を卸す大手業者。  
その倉庫ヤードには、キリン、アサヒ、サッポロ、サントリー、4社すべて(!)の樽がそろう。すべて、日本からの輸入。

(参考) 日本への「ビール」の輸入実績(2011年の量の順)

財務省貿易統計から作成

銘柄事例	2011年(KL)	2010年(KL)	量の伸び率	2011年350ml缶 換算の輸入価格
103 大韓民国 大手流通のPB	11,821	1,364	766%	¥28
305 メキシコ コロナ	6,348	5,829	9%	¥32
206 アイルランド ギネス	4,865	4,739	3%	¥96
601 オーストラリア フォスターズ	3,673	4,602	-20%	¥35
208 ベルギー シメイ、デュベル	2,708	2,496	9%	¥73
213 ドイツ レーベンプロイ	2,662	2,018	32%	¥54
304 アメリカ合衆国 バド、クアーズ、アンカー	1,982	1,519	31%	¥43
205 英国 BASS	1,469	1,339	10%	¥50
110 ベトナム 333	1,164	390	199%	¥26
207 オランダ ハイネケン、グロールシュ	1,023	1,110	-8%	¥45
111 タイ SHINGA	910	895	2%	¥37
105 中国 青島ビール	757	757	0%	¥36
220 イタリア ペローニ	546	500	9%	¥54
204 デンマーク カールスバーグ	312	1	51,031%	¥32
その他	2,129	1,871	14%	¥47
合計	42,370	29,429	44%	¥45

韓国製は非常に安い!

ギネスとベルギービールは高付加価値

(参考) 日本への「麦芽発泡酒」の輸入実績(2011年の量の順)

	2011年(KL)	2010年(KL)	量の伸び率	2011年350ml缶 換算の輸入価格
103 大韓民国	166,700	117,586	42%	¥27
111 タイ	15,489	7,144	117%	¥24
106 台湾	4,646	2,912	60%	¥22
208 ベルギー	4,148	1,983	109%	¥32
110 ベトナム	2,279	1,488	53%	¥22
その他	824	413	100%	¥30
合計	194,085	131,526	48%	¥26

韓国製発泡酒の輸入単価(27円)は韓国製ビールの単価(28円)とほぼ同じ!

- 日本(実質4社)から韓国への2011年のビール輸出は1.3万KL(57%増)だが、日本の韓国(実質2社)からの輸入は、ビール1.2万KL(766%増!)、発泡酒16.7万KL(42%増)と、はるかに多い!(2011年は特殊要因として3.11の影響があるが)
- 2011年の輸入ビール+輸入麦芽発泡酒の合計量約23.6万KLのうち、韓国からのものが約17.9万KL、実に75%を占める! 大手流通に大量に並ぶPB製品を見ると、うなずける数字ではある。



# 国内トピックス:「0.00%」の伸長

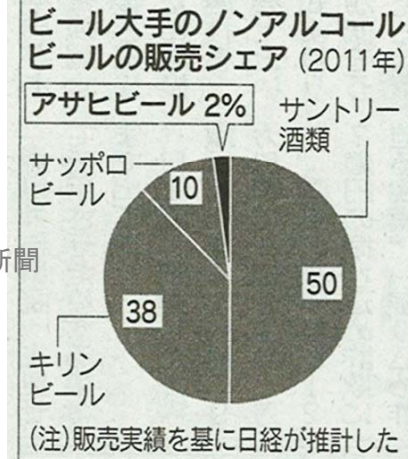
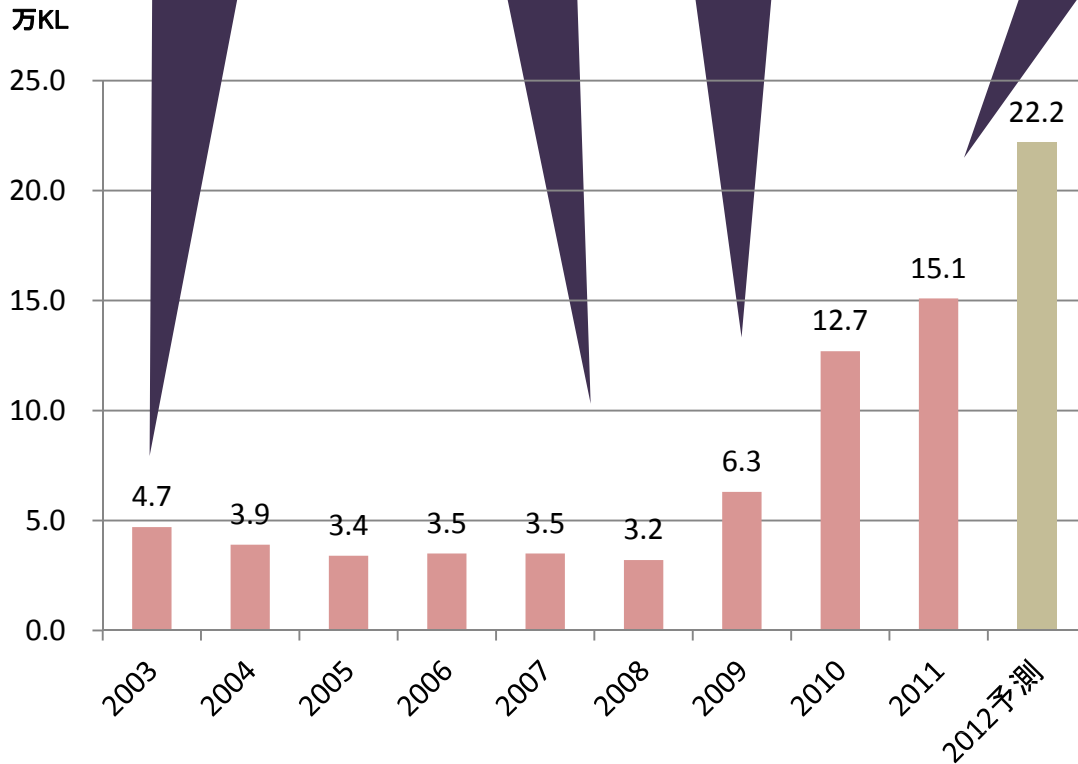
2002年の道交法改正（飲酒運転罰則強化）で2003年はノンアルコールビール需要が盛り上がる。国産ではキリン「モルトスカッシュ」、サントリー「ファインブリュー」、サッポロ「スーパークリア」、1986年発売の宝「パービカン」など。

2008年まで：ノンアルコールといえども醗酵工程を経るので、0.1～0.5%のアルコールが含まれるのが普通だった。（2004-5年頃ヒットした「こどもびいる」は完全ノンアルコール。）

2009年4月、キリンが業界初の0.00%、発酵工程を経ない「フリー」を発売。新市場創生で一気に前年比2倍。同年9月には、残り3社が追従して4社体制。2年ほどはキリンの一人勝ち。

2010年8月、サントリーの「オールフリー」登場。2011年は首位に。サッポロの「プレミアムアルコールフリー」も健闘して3位。2011年はビールの2.5%が「0.00」。

2012年2月、シェア4位だったアサヒが「ドライゼロ」を発売、大幅増を目指す。各社の1月時点の計画を単純合計したのが22.2万KL。その後、計画を上方修正した会社も。20万KL前後となるのは間違いなさそう。



2012.2.21 日経新聞

2012.1.14 毎日新聞

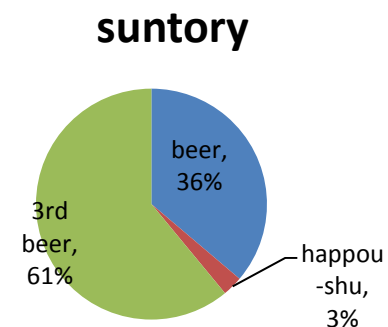
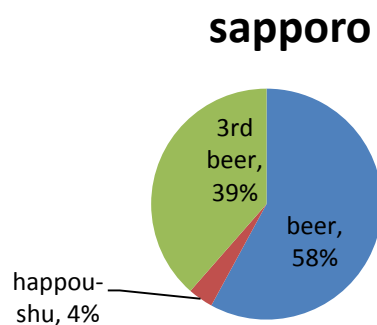
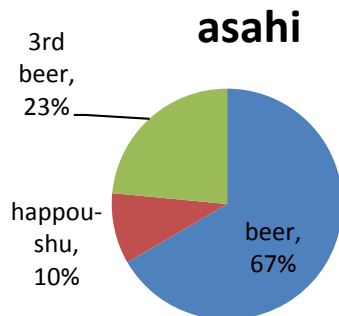
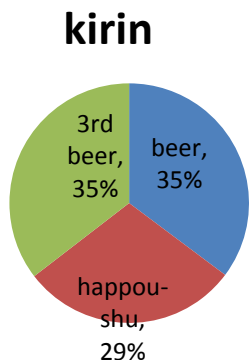
12年 ビール 販売 大手 4社 の 目標	ビール類		ビール風味ノンアルコール
	アサヒ	1億6700(0.5)	300(約12倍)
キリン	1億6350(2.0)	550(25.0)	
サントリー	6050(3.2)	700(19.1)	
サッポロ	5340(3.9)	200(76.6)	

※単位・万箱(1箱は大瓶20本換算)、カッコ内は前年比伸び率・%

出所：過去の複数の日経新聞の記事の数字(主にキリンの推計による)などから作成。2008年以前については、より少ない数量だったとする推計もある。

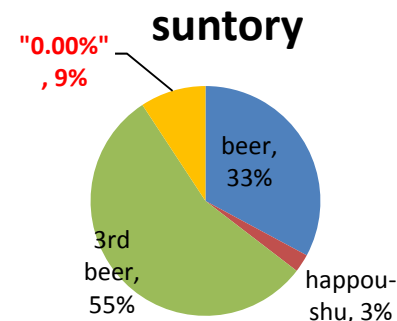
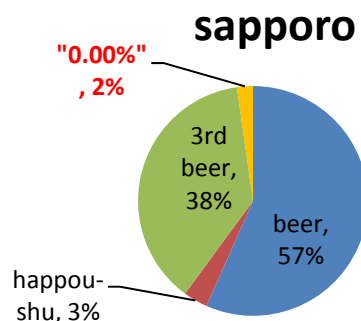
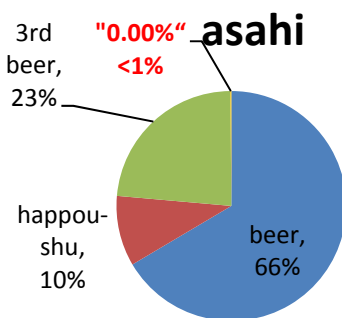
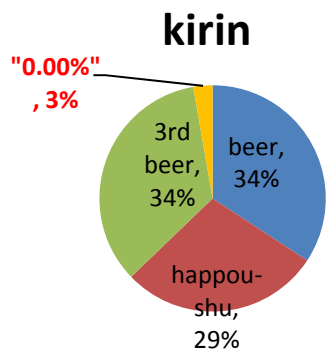
# 大手4社のジャンル別生産量、「酒類のみ」と「0.00%を含む場合」

## 2011年の大手4社の出荷状況：会社別ジャンル比率



出所：酒類食品統計月報 2012年2月号の記事から作成 小数点以下を四捨五入して%表示

## 2011年の大手4社の出荷状況：会社別ジャンル比率（「0.00%」を含む）



出所：酒類食品統計月報 2012年2月号（酒類実績）+2012.1.14 毎日新聞記事（0.00%の実績）から作成 小数点以下を四捨五入して%表示